

立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 設立による研究高度化の取り組み

立命館大学 村上正紀

A. 立命館大学の生い立ち

- ・ R-GIRO設立前の取り組み⇒教育に重点を置いた私学の研究施策

B. R-GIRO（2008年設立）の具体的な取り組み

- ・ 社会貢献に軸足を置いた重点的研究施策

C. R-GIROによる研究高度化の波及効果

D. R-GIROの取り組みの特徴

- ・ 管理・運営体制など

E. 【参考資料】2012年度に採択した具体的な研究拠点の事例

1971

1975

1990

2007

カリフォルニア大学

米国IBM

京都大学

立命館

1971年

1975 - 90年

20年間の米国生活を終え、
1990年母校へ戻る。

2007年4月

京都大学

工学研究科
博士後期課程
修了

IBM

T.J.ワトソン研究所
(New York)
・Research Staff Member

京都大学

大学院工学研究科
材料工学専攻教授

立命館大学

学校法人 立命館
副総長



1971 - 75年

カリフォルニア大学
ロスアンゼルス校
(UCLA)
・Post-doctoral
fellow
・Research
Associate

2007年3月

京都大学定年退職

IBM

T.J.ワトソン研究所
薄膜材料部門マネジャー

立命館
グローバル・
イノベーション
研究機構の設立

35年間(研究:電子材料開発)

6年間(研究政策・支援)

立命館大学の生い立ち

1869(明治2)年:
西園寺公望
私塾「立命館」創設

清輝楼(1869年)



1900(明治33)年:
中川小十郎
(西園寺の秘書)
「私立京都法政学校」設立

2015年4月大阪・茨木市に開設
“アジアへのゲートウェイ”へ

朱雀キャンパス(2006年)

びわこ・くさつキャンパス(1994年)

衣笠キャンパス(1965年)

大阪・茨木新キャンパス(2015年)



市街化ゾーンイメージ

研究の高度化との関連

高

文部科学省 経済産業省

国内・海外

産業界

若手教員 PD・RA

高校生・父兄

低

影が薄い

R大学教員

産学連携

教員の質

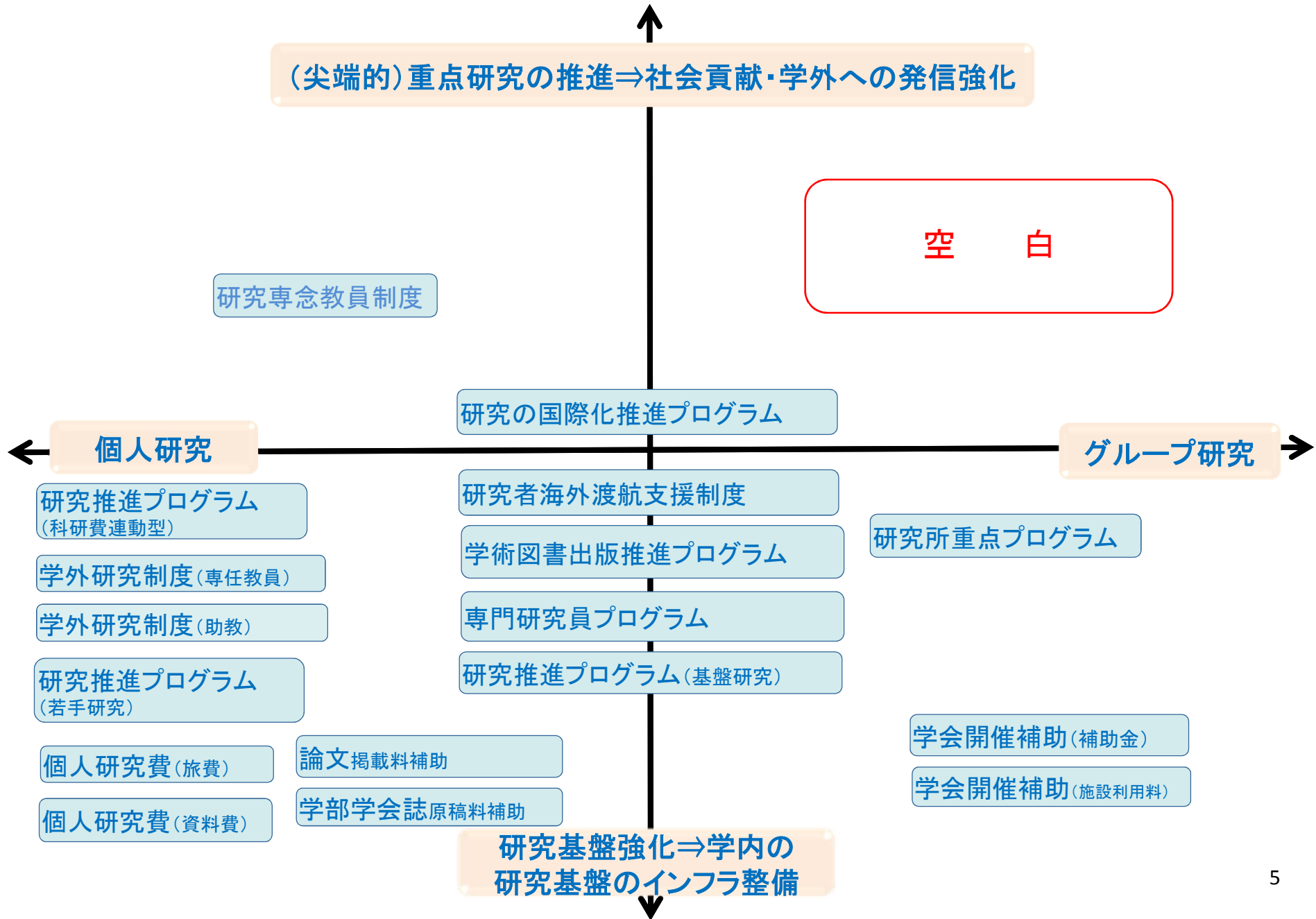
キャリアパス

課外活動

学生の質

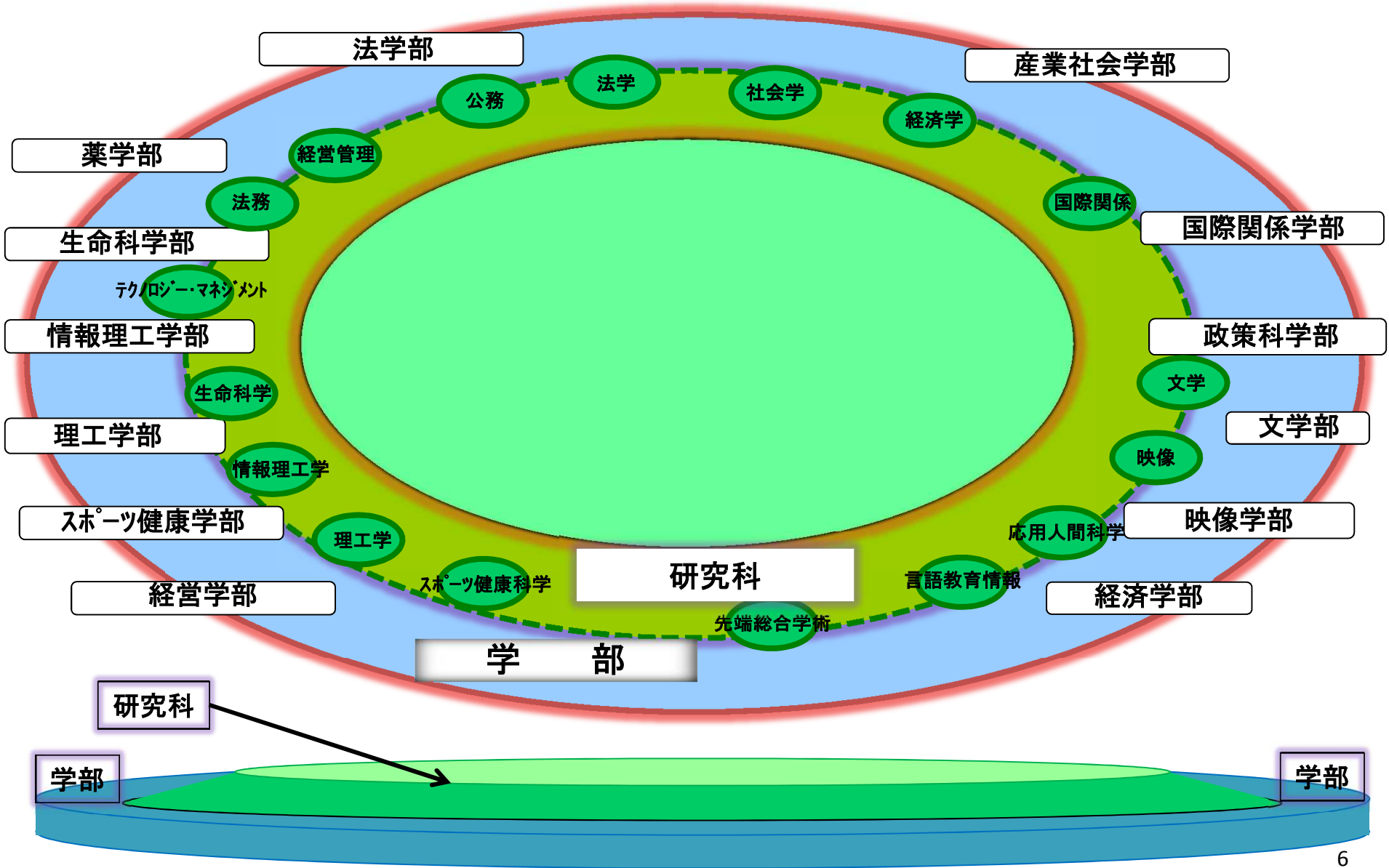
教育の質

R-GIRO設立以前の研究高度化施策 ⇒学内の研究基盤インフラ整備に重点



R-GIRO設立以前の研究高度化の目標

⇒ 全学的に均一な研究基盤整備 (研究のインフラ整備)



2007年からの立命館大学の研究高度化施策

研究高度化との関連

高

国内・海外、文部科学省
経済産業省への認知度



産業界



若手教員 PD・RA



高校生・父兄



低

影が薄い

研究の質

国際化



産学連携

R大学教員

教員の質

キャリアパス

課外活動

学生の質

教育の質

2007年からの研究高度化施策⇒社会に貢献に軸足を置き、研究の質の向上

尖端的重点研究の推進⇒社会貢献・学外への発信強化

全学一丸となり、21世紀の社会に貢献する政策的研究 ⇒ 課題？

研究専念教員制度

研究の国際化推進プログラム

個人研究

グループ研究

研究推進プログラム (科研費連動型)

学外研究制度 (専任教員)

学外研究制度 (助教)

研究推進プログラム (若手研究)

個人研究費 (旅費)

個人研究費 (資料費)

論文掲載料補助

学部学会誌原稿料補助

研究者海外渡航支援制度

学術図書出版推進プログラム

専門研究員プログラム

研究推進プログラム (基盤研究)

研究所重点プログラム

学会開催補助 (補助金)

学会開催補助 (施設利用料)

研究基盤強化⇒学内の研究基盤のインフラ整備

自然科学系の科学・技術の発展

人間社会は原始時代から種の保存と文化の継承の為、発展

原始社会 → 農耕社会 → 工業化社会 → 情報社会 → 自然調和社会

前世紀（社会）の要請（欲望） → 科学・技術を誘発 → 新社会への反映

19世紀の要請から20世紀社会の発展

【19世紀社会からの要請・欲望】

なるべく 自分のエネルギーを使わず（動かず）、快適な生活

『二十世紀の豫言』（報知新聞 明治34年（1901年）1月2日、3日掲載）

二十世紀の豫言(一部)(23頁目中-17頁目実現)

(報知新聞 明治34年(1901年)1月2日、3日掲載)

【無線電信及電話】(国際電話)

東京に在るものが倫敦紐育にある友人と自由に對話

【遠距離の寫眞】(デジタルカメラ)

電氣力によりて早取寫眞となす。寫眞は天然色を現像すべし

【暑寒知らず】(エアコン)

新機械發明。暑寒を調和する爲適宜の空氣を送り出すことを得

【人聲十里に達す】(携帯電話)

十里の遠きを隔てたる男女互いに婉婉たる情話をなすことを得

【寫眞電話】(テレビ電話)

電話口には對話者の肖像現出するの装置ある

【鐵道の速力】(新幹線)

東京神戸間は二時間半

【買物便法】(ネット・オークション)

寫眞電話によりて遠距離にある品物を鑑定し且つ賣買の契約を整へ其品物は地中鐵管の装置によりて瞬時に落手することを得ん